

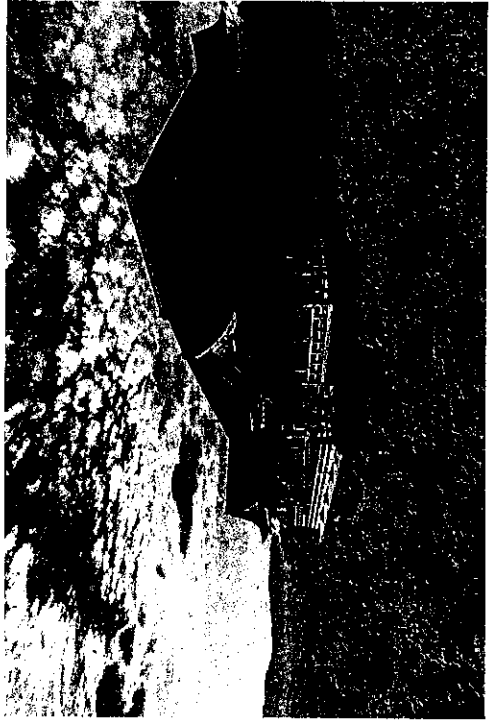


情熱の羅針盤

No. 8 (2023.10.04)

【校外学習、終了!】

9月15日(金)、京都への校外学習が行われました。個人的に前週から京都市の週間天気予報を手エックしていたのですが、なぜか日を追うごとに降水確率が上がっていき、当日は大丈夫かな...? という一抹の不安もありました。しかし、フタを開けてみれば雨らしい雨もなく、時々晴れ間のぞく曇り空という絶好の行楽日和でした(すごく暑かったけど!)。外国からの観光客に囲まれながら、普段の学校生活では絶対にできない体験活動をしたり、あるいは地元を離れたところで電車やバスを乗り継いで目的地を目指したりなど、単なる観光にとどまらない経験を積むことができたのではないかと思います。



また、今回の校外学習は単に見聞を広めるだけではなく、来年度の修学旅行に向けて“班行動のイメージ”を膨らませてもらう意味もありましたが、しっかりと協力したりお互いに配慮し合ったりして過ごすことはできましたか? 校外学習と修学旅行とは行事の規模は全く違いますが、「時間と気持ちにゆとりある行動」、「報告・連絡・相談の徹底」、「具体的な計画」など、大切なことというのはいろいろと共通しているものです。これらが不十分で、職員に迷惑をかけてしまった...という人もいたのではないのでしょうか。そういったケースも含め、自由が伴う団体行動の練習ができたのなら、価値ある1日となったはずです。(それ以外にも、かなり大量のお土産をもらって帰った人もいましたね。)

【校外学習アンケートの感想より ~千年の都でつばやいた、あんなことやこんなこと~】

一番長く過ごしたのは電車の時間だった。京都への往復はもちろんな、昼食、午後の伏見稲荷大社への移動でも乗って、めっちゃ京阪電車を使いまくった。駅まで歩いて大変だったけれど、こんな大変な思いをして行った観光はとも達成感があった。2万歩も歩いて体もポロポロだけど、修学旅行でもまだ自由行動をたくさんしたい。班のみんなとも仲良くなれた。(1組・4さん)

たくさんの人に迷惑をかけた。まず体験学習場所に遅れてしまったこと。そして商店街で食べ歩きをする時に小銭をぶちまけてしまったこと。また、ちいかわららんでも小銭をぶちまけてしまったこと。しかし、商店街ではお店の方がハサミを持って来てくれて、倒溝に落ちた小銭を救出すること。日本の方も拾ってくれたが、がでぎ、ちいかわららんでも外国人のお姉さんが小銭を拾ってくれた。日本の方も拾ってくれたが、間違えてその人にも「Thank you...」とネイティブっぽく感謝を述べてしまった。京都は、友達との思い出だけではなく、人間の温かみを知るきっかけを作ってくれたのである。(2組・5さん)

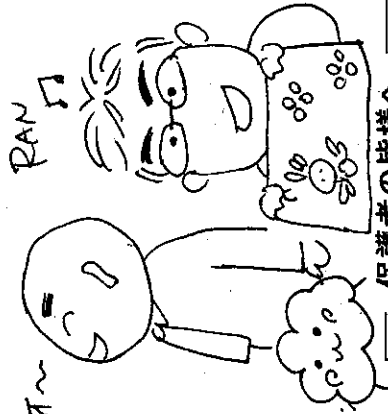


決めたところはやはり行くと思わずに、ここ行ってみたいというところを予め調べておき、時間があればそこへ行くという作戦を立てたが、それが成功して、誰かが「行きたい!」と思ったところに行ったり、悩んだら調べておいた場所に行ったりなど、いろいろな場所を巡ることができた。自分たちで予定を立てるのは難しかったけれど、とても楽しかった。(3組・Kさん)



以前京都に行ったのは中2の時、その時は食べ歩きかではできなかったもので、今回いろいろなものを食べて京都を感じることもできた。街並みなども綺麗で日本を感じられるところなので、また改めて行きたい。お寺などを見ることが好きなので、たくさん見られて良かった。私にはあまり電車に乗らないので、その練習にもなって良かった!(4組・Eさん)

現地集合現地解散の校外学習は初めてで、辿り着けるか不安だったが、無事生きていたので良かった。食べ歩きで苦戦したこととあつたけれど、友達との仲が深まった良い校外学習だったと思う。また、清水寺に月に3回かよっているというカメラマンやハツ橋のお店の店屋さんとお話をしたり、狭い道を歩いていると手持ち扇風機の風を当ててくれるちよっと変わった人がいたり、いろいろな人と出会えたのでとても楽しかった。(5組・Hさん)



和菓子作りは三田ではなかなかできないので、今回は貴重な経験になった。清水周辺は今までに行っていたことがないので、もう一度行きたいと思っていた場所に行けた感じだった。中学までは紙の地図で何とか教習できていたが、今回はGoogleマップという最強の地図があったので、とても教習しやすかった。京都は4時間では回りきれなかったけれど、それでも限られた時間内でグループで教習をするのは1人で教習するのとはまた違う楽しさがあった。良い経験になった。来年の修学旅行にも活かせたらと思う。(6組・Nさん)

保護者の皆様へ

9月15日の京都はまだ秋らしいほっとしない、酷暑とも言える気候でしたが、目立った体調不良者や怪我人などもなく、無事に今年度の校外学習を終えることができました。現地集合・現地解散ということについてご心配もあつたことと存じますが、電車やバスの乗り間違いなど小さなトラブルも含めて、良い経験を積んでくれたことと思います。ご理解とご協力をありがとうございます。

【△事故・怪我多発中△】

夏休みが終わってから、登下校中の事故や怪我が多発しています。全て軽微なもので済んではいませんが、「1年次が最も事故が多い」というセオリーどおりになってしまうことを心配しています。軽微な事故が起こる前には、「ヒヤッとした」「ハッとした」場面がたくさんある。軽微な事故が積み重なった後には、とんでもない大事故が待っている。いわゆる「ハイリッジの法則」です。本当は「ヒヤッとした」時点でそれを教訓に警戒すべきなのですが、どうも「大したことなくてラッキー」で終わってしまうのが人間の性質なのかもしれません。

先日の臨時集会でも言いましたが、誰かの事故を「自分事」と考えて注意力を高めてください。これから下校時間が一気に暗くなってゆきます。これ以上、事故や怪我が起こらないことを切に願います。

年次団リレーコラム・「あの頃ぼくらは」第4回

今、高校生である皆さんと接している年次団の先生方も、もちろんかつては高校生だった…。その頃を振り返りながらあれこれと語っていくリレーコラム。第4回は6組担任の谷口先生です。

「私と高校生活 ～過去と今をつなぐカレンダー～」

去年、高校時代の同じバスケット部の友人の結婚式に参列した。

式当日は、本当に懐かしい高校時代のメンバーがそろった。成人式の同窓会以来の友人もいた。

高校時代の懐かしい話でとにかく盛り上がった。話をしている一番腹を抱えて笑ったのは、正直ほとんど部室の中での話だった。先生にどう謝るか相談したり、恋バナしたり、ドッキリを仕掛けあったり、時にはバスケットの熱苦しい話で真剣に語ったりした、2畳ぐらいの狭い部室での出来事が一番みんなの記憶に残っていた。修学旅行や文化祭など、思い出になるイベントなんていくつでもありそうなものだが、得てして記憶に残るのはそういうものなのかもしれない。

そんな中でも特に話題になったのは、部室に貼っていたカレンダーだった。部活の予定を書き込むために貼っていたカレンダーだったが、気が付いたら、おもしる事件が起きた記念日をメモしておく構忘録になっていた。ある部員が『一人でスイパラに行った』という珍事案が発覚した日や、ある部員が『マネージャーに振られ、さらに、その振られている場面を顧問に見られた』という事件が起きた日をメモしていた。そのメモの中には『〇〇、10分遅刻』とか『1周多く走らされた』とか、そんなレベルのものも書いてあったが、10年以上たった今でもカレンダーに書かれた言葉やその字体まで皆不思議とはっきりと覚えていた。書いて覚えるという古典的な方法は、記憶の定着には1番なのかなど改めて思った出来事であった。

「日記をつけると記憶力が向上する」という研究結果がある。その日あった出来事を思い出して文書に書くことで、「思い出す」作業をつかさどる脳の部分を刺激させるだけでなく、情報を整理する力や端的に重要事項をまとめる力が身に付くため、結果、記憶力が向上することだ。ほかにも日記をつけると脳のモヤモヤを可視化することができるとも、ストレス解消にもつながるともいわれている。

短期記憶が苦手だというそのあなた！ 毎日、1行だけでもいいので日記を書いてみてはいかがだろうか。

…おっと忘れてはいけません。10月考査も頑張ってくださいね！！

(第4回：終わり)

